

2023年10月5日

伊達市長
堀井 敬太 様

一般社団法人北海道自然保護協会
会長 在田一則

伊達市有珠湾ナイフルカの自然環境の保全に関する要望

貴職におかれては、伊達市の町づくり・地域づくり、また豊かな自然環境の保全に尽力されておりますことに心からの敬意を表します。

さて、昨年夏から、伊達市有珠湾ナイフルカにおいて北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部による「有珠漁港海岸保全施設整備連携事業」に伴う津波対策として防潮堤の嵩上げ工事の計画があり、その工事によりナイフルカの地質・地形・水理環境と希少種を含む生物群集からなる特異な生態系が損なわれると危惧しております。

私たちは、防潮堤の嵩上げ工事そのものを否定するものではありませんが、以下に述べますように、ナイフルカ周辺の自然環境の保全、具体的にはこの地の特異な自然生態系を守るために、嵩上げ工事の工事方法の見直しを行うことを要望いたします。

貴職の特段のご配慮をお願い申し上げます。

1. ナイフルカ周辺の地学的特徴

生態系は、ある地域に見られる生物すべてのまとまり（生物群集）とそれを支える非生物的環境から構成されます。ナイフルカ周辺の生態系における非生物的環境では、以下のような地質・地形・水理の特徴があり、後述のように、それらがこの地域の特異な生態系、言い換えますと、この地域の豊かな生物多様性を支えています。

(1) 地質の特徴

有珠湾一帯は、海域も含め、善光寺岩屑なだれによる“流れ山”地形に富み、それらが有珠湾特有の変化ある景観を生み出し、観光資源になっています。1878（明治 11）年に有珠を訪れた英国の旅行家・ナチュラリストのイサベラ・バードは「美しい自然に囲まれて眠っている有珠を名残り惜しく去った。これほど私を魅惑した所を見たことがない」と称賛しています。

有珠湾一帯は、約2万年前（従来の説では8,000年前）頃の有珠山外輪山の大規模な山体崩壊によって有珠湾に向かって流下した大量の土砂や岩塊（岩屑なだれと言います）により広く覆われ、その中に崩壊せずに流下した火山体が大小の小山として点在し、“流れ山”地形を作っています。流れ山は海中にも小島や岩礁として見られます。日本における流れ山地形では、福島県の磐梯山（1888年噴火）の裏磐梯や秋田県の鳥海山（紀元前466年の噴火）の象潟、北海道駒ヶ岳（1640年噴火）の大沼などが有名ですが、有珠湾一帯でもこれらに劣らず流れ山地形がよく残り、特徴ある景観を形成しています。

(2) 地形の特徴

点在する流れ山が“松島”的景観を呈し、イサベラ・バードに感動を呼び起こしたものと思われます。流れ山は入り組んだ海岸線や岩礁帯を作り、流れ山と流れ山の間には波静かな干潟や潮間帯が広がっています。ナイフルカも流れ山と流れ山との窪地に位置し、また潮間帯であるため、海の干満により海水に浸され、また空気にさらされるという、極端な日変化・季節変化に富む環境にあります。

(3) 水理的特徴

岩屑なだれ堆積物は透水性がよいため、有珠山麓における降水は地下水となり、それが海岸付近でしみ出し、湧水地が点在しています。しかも、その湧水は有珠山の地下の熱のためか少し暖かく、これまた、この地域の特徴ある生態系を育むものとなっています。

2. ナイフルカ周辺の生物群集の特徴

(1) 潮間帯の希少種となる甲殻類

ナイフルカ周辺の潮間帯における甲殻類として、第一に、コメツキガニが挙げられます。コメツキガニは、北海道では有珠湾にのみ隔離分布し、有珠湾が道内唯一の生息地になります。ここは本州の生息地から約150kmも離れた北限の生息地です。有珠湾におけるコメツキガニの生息範囲は極めて狭く、しかも近年、環境悪化のために生息範囲が減少しています。この北限の隔離分布集団は絶滅の危機にあり、その保護は喫緊の課題です。また、有珠湾では、希少種アリアケモドキが60年ぶりに確認され、ケフサイソガニやタカノケフサイソガニなど他の希少種も見つかっております。

(2) 海中から潮間帯、そして陸上に至る環境変化に応じて生育する多様な植物

沿岸域において海中、潮間帯、および陸上に至る環境変化に応じて、それぞれ海中の多様な海藻や海草、潮間帯（干潟）の塩生植物、そして陸上の海岸植物や砂浜・

砂丘の植物が生育しています。特に注目すべきは、ナイフルカ周辺の潮間帯（干潟）に生育するウミドリ（国内の地域によって絶滅危惧種に指定）、シバナ（環境省準絶滅危惧種NT）、エゾツルキンバイ、チシマドジョウツナギ、ドロイなどの塩生植物です。塩生植物に構成された「塩湿地植生」は特異な種類から構成されるだけでなく、国内における自然状態の塩湿地植生は種々の開発行為によって減少し、北海道東部に残された状況にあると指摘されています。したがって、ナイフルカ周辺の「塩湿地植生」は、道東を除く道内では非常に少ない極めて貴重な自然と言えます。さらに、ナイフルカでは、潮間帯の塩湿地植生に湧水地点が認められ、汽水にも生育できる陸上の湿地植物が混生し、この「塩湿地植生」をより特異なものとしております。また、海岸植物ではネムロスゲ（環境省準絶滅危惧種NT）やハマゼリ（胆振・後志・日高で北限・東限）など希少種の生育が特記されます。

(3) 鳥類

ナイフルカ周辺は点在する流れ山が防風壁となっており、内浦湾を通る渡り鳥にとって良好な中継地や餌場・休息地となっています。また、上記のように多様な環境に応じた動植物が生育・生息しているため、食物連鎖の頂点にある鳥類は多様であり、観察記録は100種を超えています。

3. まとめ

以上に述べましたように、ナイフルカ周辺は、特異な“流れ山”地形のめぐみにより、多様な生物に富む、豊かな自然生態系であり、伊達市はもとより北海道の自然資産として未来の世代に残すべきものと考えます。そのための一つの方法として、NPO法人地域自然活動センター森・水・人ネットが提案しているナイフルカ湧水地周辺を自然散策公園とし、洞爺湖有珠山ジオパークのジオサイトとして活用するという計画に賛同いたします。

伊達市としてもこの計画を推進されるようお願いいたします。

この件についてご質問などがありましたら、下記までお願いいたします。

一般社団法人 北海道自然保護協会

住所：〒003-0026 札幌市白石区本通1丁目南2-38

電話：011-876-8546 FAX:011-211-8465

メール：info@nc-hokkaido.or.jp